

広報なすしおばら

NASU NOBARA Newspaper

3 / 5

March 2017 No.293

特集

祈り



市では目の不自由な人のために音訳版広報を発行しています。詳しくはシティプロモーション課までご連絡ください。

祈り



【三本木の獅子舞の三獅子】
三本木地区の三本木延命地藏尊に奉納されている獅子頭。毎年3月下旬、3頭の動く姿が見られる

第一幕 紡がれてきたもの

生活に密接に関わってきた祈り

四季折々の祭りといった年中行事、一生の節目に営まれる人生儀礼などの風俗習慣、神楽・田楽などの民俗芸能、生活や生業に関する用具・用品の製作技術……地域には人々の日々の生活から生まれ、独自の形で伝承されている文化がある。中でも民俗芸能は、生活と信仰の中で人々が捧げてきた祈りであり、神への感謝のしるし。市内にも創作太鼓などの新しいものを含め、個性豊かな31の芸能が息づいている。

生活のすそ野にいた「畏怖」

獅子舞や神楽など、もとは五穀豊穣や無病息災などを祈願する神事として長く伝えられてきた民俗芸能。現代のように医療技術や食料の供給も安定してい

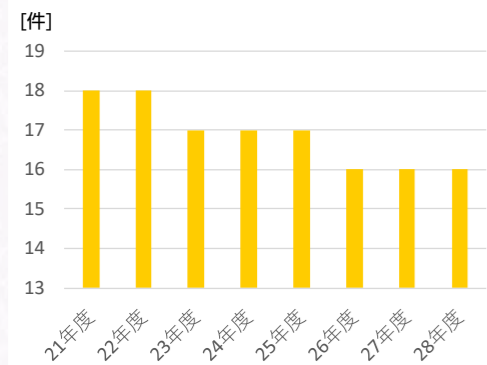
なかつた時代は、病や凶作などは死活問題だった。人々は神に祈りを捧げることでこれらの厄を除けてきた。また、ある時代は娯楽の少ない時代の「楽しみ」の一つでもあっただろう。

時代の流れとともに減りゆく現状

人々の生活の営み・思想・心などの風流(ふうりゅう)を表す貴重な芸能であるが、生活習慣の変化や伝承者の高齢化、後継者の不足といった理由から、年々数を減らしている。形が無いことから、無形民俗文化財と呼ばれる、主に口伝で伝承されるため課題もある。市内でも指定無形民俗文化財の数は年々減少傾向にあり、いずれも担い手の不足が主な原因だ(下グラフ参照)。こうした背景の中、貴重な文化を次代に継承していくことと、保存に取り組む団体も多い。

市内には、計31の郷土芸能があり、うち16は国・県・市いずれかの指定民俗文化財に指定されている(下表)。市内には江戸時代から続く歴史ある民俗芸能のほか、地域の史実や伝説をモチーフに地域おこしの一環として20~30年前に誕生した創作太鼓などの新しいものも存在する。

【市内の指定無形民俗文化財数の推移】



【無形民俗文化財】

四季折々の祭りなどの年中行事、人の一生の節目に営まれる人生儀礼などの風俗習慣、神楽・田楽・風流などの民俗芸能、生活や生業に関する用具・用品の製作技術などが「形」の無い、無形民俗文化財と呼ばれる。

【指定を受けている市内の芸能】 ※現在休止中

名称	指定区分	奉納時期
木綿畑新田の太々神楽	市指定	4月第1日曜
三本木の獅子舞	市指定	3月下旬
高林の獅子舞	市指定	4月第3日曜
百村の百堂念仏舞	国選択	4月29日
木綿畑本田の獅子舞	市指定	4月第4日曜
下厚崎の獅子舞*	市指定	3月第2日曜頃
西富山の獅子舞(1)	市指定	3月第2日曜頃
遅沢ばやし	市指定	
塩原平家獅子舞	県指定	9月中旬
関谷の城鉦舞(2)	県指定	4月29日
上大貫の城鉦舞	県指定	9月上旬
上塩原古代獅子舞	市指定	9月17日
上塩原源太踊り	市指定	9月17日
関谷囃子	市指定	7月第2土曜
嶽山箒根神社梵天上げ(3)	市指定	11月23日
臺沼もちつき	市指定	



(1)西富山の獅子舞



(2)関谷の城鉦舞



(3)嶽山箒根神社梵天上げ

家内安全

五穀豊穣

病、飢饉、たたり、凶作：その昔、人々は災いを恐れた。ときに豊作を祈った。ときに生活の楽しみとして思いを巡らせた。それも全ては生きるため——貧しかった時代、娯楽が発達していなかつた時代、祈りを形に変えるために民俗芸能が生まれた。そうした人々の日々の思いによって紡がれ、現代に息づく民俗芸能は、私たちにとってどのような存在なのだろう。市内の民俗芸能の今を追った。

安産祈願

無病息災

子孫繁栄

第二幕 唯一の神楽

長年の伝統を大切に紡いでいく

高林地区の木綿畑新田。そこには100年以上伝承されてきた市内唯一の神楽芸能がある。平安時代から全国に語り継がれ、独自の形で継承されてきた神楽。笛や太鼓の音とさまざまな神々がおりなす舞の裏側には、伝承のための物語があった。

舞

語り継がれる
11の祈り

1 国定め



しんせんぶつ
神饌物
神楽舞の前に神々へ酒食を供える儀式。一般的には稲・米・酒・魚・野菜などが供えられる

2 猿田彦の舞

最初の礼拝の舞。神楽殿の四方八方を清めることから「舞台浄め」などともいう



3 二神の舞

天狗面のサルタヒコノカミが長刀を研ぎ澄ましながらか快に舞う。俗に露払いという



4 八幡舞

天地和合して万物を生ずることを象徴するアマツカミとクニツカミの二神による舞



5 鬼女の舞

春夏秋冬の神々と1人の姫による色鮮やかな鈴の舞。木・火・土・金・水の五神である場合が多い



6 磐戸の舞

八百万の神々が「天の安河の原」に集まり、天の磐戸を開く見せ場。笛や太鼓の音に合わせて、個性豊かな神々がにぎやかに騒ぎ立てる



7 恵比寿舞

磐戸開きによって世の中が明るく平和になり、恵比寿様がヒョットコとともにタイ釣りをする



8 大黒舞

豊年万作・家内安全・四海安泰を祈りつつ、ヒョットコの奉仕を受けながら大黒様が舞う



9 農業の舞

2人のヒョットコが、開発した荒地にまかれた種を食い荒らす白狐を捕らえようとする



10 八俣の蛇

クシナダヒメを襲うヤマタノオロチ。そこにササノオノミコトが現れ、退治する



【神楽とは】

神の座を設けて神々を勧請し、その前で踊る舞踊のこと。平安時代に様式が完成したとされる。神が宿る場所を意味する神座(かむくら)の約音が「かぐら」と呼ばれる起源との説もある。

【木綿畑新田の太々神楽】

大正4年(1915)に大正天皇の即位を記念して故熊久保常吉氏の発起により、矢板市の木幡神社に伝わる神楽の伝授を受けて始められた。当初、12舞を受けたが、現在の演目は「湯立の舞」を略して11舞となっている。稲荷神社の春の例祭日である旧暦の2月初午の日に奉納されていたが、現在は毎年4月の第1日曜日に奉納されている。市指定無形民俗文化財。

市内唯一の神楽芸能
木綿畑新田地区は38戸の集落。そこには100年以上伝承されてきた市指定無形民俗文化財の太々神楽がある。全11舞ある神楽で、その全てを奉納するためには約3時間を要し、多くの人手が必要となる。そこで、地区の人口が減少傾向にある中でも継承していくために、最近では、担い手の確保と舞の伝承に加え、舞の数を縮小することで対応している。

神楽は平安時代に宮廷神楽(御神楽)ともいって始まったと言われ、民間で行うものは「里神楽」「岩戸神楽」などと呼ばれた。栃木県内に伝承された神楽は、古事記や日本書紀などの神話をもとにした太々神楽が多く、市内の神楽は木綿畑新田のものが唯一。年々、舞台で演じることのできる演者の数は減っているが、これまでの伝統を守ろうと、地域住民の手によって続けられている。



↑木幡神社の太々神楽(矢板市提供)



↑木綿畑新田集会場の一角には、役目を終えた昔の面が並べられている



面

表情豊かな面の数々。長年使っていると塗装が剥げてポロポロになってくる。30年以上前、面づくりを趣味としていた大田原市の前原氏によって製作された



物

祈りを飾る
道具たち

舞台に広がる神話の世界観を音、表情、色で飾る道具の数々。舞だけではなく、これらの道具も長年継承され、大切に使い続けられている。

舞を先導する3種の楽屋。こちらの習得も容易ではない。舞と息を合わせなければいけないため、舞を理解しているものにしか扱えない

楽屋1

笛



楽屋2

小太鼓



打力の強弱によって、舞に臨場感を持たせる

楽屋3

大太鼓



衣装

衣装は全て特注品。約30年前に新調したが、最近ではほつれも目立つ。今は地区の女性が補修に携わり、神楽を支えている



年季の入った支柱。長く使われてきた歴史が垣間見える



神楽殿は奉納当日に地区の住民によって組み上げられる

神楽殿



神々が舞う際、合間に鳴らされる鈴。“シャン”という音が、舞にアクセントをつける

鈴

役の数だけ表情がある
神、青鬼、白狐、ヒヨットコなど、面は役の数だけ表情豊かなものが用意される。全て木彫りで、見事に表現される顔の滑らかな曲線。リアルで強烈な印象を感じないだろうか。
奉納のたびに組み上げる神楽殿
神楽が披露される舞台を神楽殿と呼ぶが、木綿畑新田の場合は奉納当日に全戸から1人ずつ出役して組み上げる。午前8時頃から組み始めて3〜4時間かかり、午後からは神楽の奉納が行われる。



菊地 建太 さん (25)
舞手1年目
(主な役・国定め)

神楽は小さい頃からずっと見てきたお祭りでした。朗らかな笛の音色に合わせて独特な動きを見せる演者。特に、ひよっとこのキャラクターが強烈に印象に残っています。すごく現実離れた世界だけど、「いつか自分もこれをやるのかな」、そう漠然と感じていました。

大切な存在として感じてもらうために――

現在は舞い手になって1年目。大学卒業後に実家へ戻り、神楽に誘っていただきました。正直、最初は「面倒だな」と思っていたこともありましたが、「やりたい役があったら言ってきていいから」と、やさしく話しかけてくれた、優しく教えてくれる先輩のおかげで、舞に対して前向きになりました。なにより、私の周りには、民俗芸能に携わる友人がいないことも特別な誇りを感じる理由になっています。それに地区の伝統なので、長くつなげていかなきゃという思いもあります。

これからも地域の皆さんにとってこの神楽が大切な存在として考えてもらえたら、これからもなくなることなく続いていくんだと思います。

若き伝承者の思い



私が舞い手になったのは神楽が始まってちょうど100年目の年でした。小学生までは神楽を見に行っていた記憶はありませんが、実際のところ細かい内容や出来事はほとんど覚えていません。でも、初めて練習に参加させてもらったとき、私が小さいながら神の真似をして舞台の前を動き回っていたという話を先輩方に聞き、神楽に対して強い親近感を感じたことがあります。

地元の伝統のために 続けていきたい

神楽の見どころは、私も出ている磐戸の舞。にぎやかな雰囲気と登場する神々のキャラクターが、観る人を楽しませてくれます。後継者不足でいつまで続けられるかわからないという声もありますが、舞手の一員として地元のために続けていきたいです。



小沼 大貴 さん (23)
舞手3年目
(主な役・天若日子姫)

私が舞い手になったのは神楽が始まってちょうど100年目の年でした。小学生までは神楽を見に行っていた記憶はありませんが、実際のところ細かい内容や出来事はほとんど覚えていません。でも、初めて練習に参加させてもらったとき、私が小さいながら神の真似をして舞台の前を動き回っていたという話を先輩方に聞き、神楽に対して強い親近感を感じたことがあります。



祈りを紡ぐ 伝承者

民俗芸能の伝承の中心には、いつの時代も人がいた。神楽を通して紡がれてきた人々の記憶と思いを伺った――

神楽で紡がれる伝統と絆を いつまでも――



楽屋役の仲間とともに神楽を盛り上げる大田原さん。その表情はとても生き生きしている。打音に強弱をつける技が神楽の雰囲気を一層引き立てる



木綿畑新田太々神楽保存会
大田原 稔 さん(70)

「父が舞う姿を鮮明に覚えていました。息を飲むほど誇りに満ちていましたね」。長年、太々神楽に関わり、現在は太鼓の打ち手を務める大田原さん。40年以上にわたる神楽の記憶を思い返し、話を聞かせてくれた。

誇りに満ちた神楽の思い出

時代とともに変わりゆく現状

「今は地区の人口も減っていますし、勤め人の家庭も増えました。神楽は練習するにも人手がいるので、本番さながらの練習を行うのもなかなかタイミングが合わなくて」と、継承の現状を語る。神楽を形作る笛や太鼓、舞の作法は物のように形がなく、細かい動きを伝承するには撮影された映像では心もとない。「映像を見て練習



昨年4月の奉納でも、演者の笑顔が目立った。伝統を受け継ぐことに対し、前向きな雰囲気が感じられる

そう考えると感慨深いですね」と目を細める。太々神楽が始まった当初、青年たちは40日間、毎日冷水で身を清めながら練習に励み、舞を習得したとされる。「私が若い頃は早く神楽をやりたいと、毎日太鼓練習に励んでいました。神楽に携われるのは長男のみ。いざ神楽の練習に参加しても、ちゃんとやらないと先輩に怒られました。それでも神楽をやりたいという思いをみんな持っていましたね。実際に舞っているときは気持ちが高ぶって、神が乗り移ったかのように役にのめりこみます。地区のつながりを実感できる充実した日々でした」。古いアルバムから昔の写真を取り出し、練習後にみんなでお酒を飲みながら盛り上がった思い出話にも花が咲く。

「自分は、やりたいって思わないと続きません。強制してやる気を削いでしまつては本末転倒ですから。いずれ人手不足で奉納が困難な舞も出てくるかもしれませんが、1つでも多く舞を奉納できるように今の体制を維持していきたいですね」と最後に付け加えた。楽屋の音色と舞が阿吽の呼吸で作り出す世界観。今年も4月に神が舞う予定だ。

をするのと、実際に人から教わるのとは、習熟度が全然違います。練習とお面をつけて舞う本番とでも感覚が全然違う」と面を取り出し、指の先ほどこかない覗き穴を指さした。

強制はせず 前向きに

後継者の育成にも取り組む大田原さん。指導方針は、決して強制はせず、自主性に任せること。

祈りの復活

国選択無形民俗文化財に指定されている百村の百堂念仏舞。平成24年、担い手不足により一時休止に追い込まれたが、翌年、関係者や地域住民の思いにより見事復活を遂げた。その背景にあったのは、地区と学校の関わりの中で生まれた児童の一言だった。



【百村の百堂念仏舞】

百村地区で五穀豊穰・家内安全を祈って毎年4月29日の鎮守愛宕神社の祭りに奉納される念仏踊り。かつては盆行事の一つとして村内の数多くのお堂前などで演じられていたことから百堂念仏舞の名が付いたといわれる。統合後の高林小では、毎年6年生が舞手を担っている

木々が淡い緑で染まり始める4月29日。百村の光徳寺前の通りでは、色鮮やかな衣装を身にまとい、練り歩く大勢の子どもたちの姿が見られる。ところが、ここまでにぎやかな光景が見られるようになったのもここ数年の話。平成22年まで百村本田地区の子どもだけで継承していた舞は、担い手の減少に伴い、24年に休止を余儀なくされた。(23年は震災により休止) 念仏舞も舞手の人数が決まっておろ、その全てを揃えるのは簡単ではない。1年の休止期間に復活させるのか、このままなくすのか、地区で話し合いを重ね、「大切な文化だから」と地区の間口を広げて継承する道を選択した。保存会のメンバーが当時の穴沢小学校に通い、3年生以上の児童に舞を指導。統合後の高林小学校では、毎年6年生が初々しく一段とにぎやかな列をなし、愛宕神社に祈りが捧げられている。

長く受け継がれてきたものだから伝え遺したい。地区の皆さんの理解と子どもたちの勇気に救われました

「華やかな衣装を着てみたい」。これは、念仏舞を復活させるきっかけとなった穴沢小6年生の言葉です。平成23年の東日本大震災に続き、翌年も担い手不足で休止に追い込まれた念仏舞。昭和34年の復活以来、百村本田地区の子どもだけで舞を継承してきましたが、ここ最近の子ども的人数では、休止せざるを得ませんでした。

そんな矢先、穴沢小6年生の授業で「民俗芸能」について話す機会をいただき、それが縁で復活に向けた話がスタートしました。まずは、その年の9月の運動会で披露するために練習を重



小高 貴左雄氏
百村百堂念仏舞保存会 元会長
(平成17～26年まで)

地域の結束を強めるもの。
郷土愛を育むもの。
その核となるものが
民俗芸能だと思っています



江崎 裕之 旧穴沢小学校長
(埼玉小学校長)

小高さんに提案いただき復活となった念仏舞。復活して5年経ち、穴沢小も高林小と統合しましたが、今も変わらず受け継がれていることに感謝と安堵の気持ちです。

復活に向けて動き出した年、地域の指導者に教わりながら練習に励む児童の姿が、とても印象に残っています。翌年の4月、神社への奉納の前に「学校として参加したい」と地域の方々に説明したところ、慎重な意見もありましたが、結果として受け入れていただきました。これを機に、児童は民俗芸能との関わりを通して、さまざまな学びの機会を得ることができたと思

ます。地域の人との触れ合いを通して人の温かさを学ぶこと、伝統の継承という役割をとおして人に認められること、こうした成功体験によって得られた自信が新たな挑戦につながるでしょう。

児童は学校だけでなく地域によって育まれるもの。学校も地域の一員としての役割が期待されており、今回の取り組みはその一例です。地元の文化を知り、それを次の世代につなげていく。そうした人と人のつながりを通して地域の結束を強め、郷土愛を育む核になるのが民俗芸能ではないかと思っています。

今年で卒業 「学んだことを後輩に…」



大和田 颯馬 くん
高林小・6年

穴沢小出身の大和田くんは昨年4月、3年生以来の舞で太鼓を担当した。「みんなが見ている前ですごく緊張したけど、無事に踊り終わった後は達成感がありました」と、当日を振り返り、「覚えたことは練習の中で5年生にしっかりと伝えたい」と微笑んでいた。

念仏舞に初挑戦 「不安だけど頑張ります」



池田 蓮 くん
高林小・5年

「鉦をやってみよう」と話すのは戸田小出身の池田くん。授業で念仏舞について調べ、難しい歴史も学んだ。「舞も難しそう」と、4月の本番に向けて不安を覗かせつつも、「みんなに見てもらえるよう踊りの練習を一生懸命頑張りたいです」と話してくれた。



第四幕 これまでとこれから

継承の現場を通して見えてくるもの。民俗芸能の行く末を選択するのは、地域の住民自身であること。必要と思わなければ消えてしまう。民俗学の専門家である木村先生に民俗芸能のこれまでとこれからを伺った。



市文化財保護審議会 委員
木村 康夫 氏 民俗学専門
大田原市なす風土記の丘湯津上資料館・大田原市歴史民俗資料館 館長

時代を呼吸してきた民俗芸能

民俗芸能は時代の流行やノリのようなものから生まれ、広がり、各土地の風土によって磨かれてきました。「村のために何か面白いこと始めるか」。そんな軽いきっかけから始まったものも多くあったのではないのでしょうか。長く伝承されているものでも、型を維持しているものは珍しく、アレンジなども加えられることで、独自の文化として定着したのです。それを「風流」と言います。その証拠に、那須地域に伝承される獅子舞を見ても一つとして同じものはありません。

長い年月をかけて文化へ

現代の「一発芸人」と呼ばれる人の芸風は、爆発的に流行る一方、飽きられるのも早いのです。今の流行は凄まじいスピード

楽しむために華やかに彩られる

成り立ちこそ華やかさのない神事でしたが、そこに見世物としての要素が加わることで、色鮮やかに彩られていきました。華やかな夏の風物詩で有名な京都の祇園祭も、室町時代後期に一気に華やかになったと言われています。

民俗芸能を地域内で実施・継承していくには、時間も手間もかかるので「せつかくの祭りならみんなで楽しく」という考えが働くのは当然のこと。また、昔の生活は

生きるために捧げられた祈り

現代のように多様ではなく、娯楽も充実していなかったからこそ、祭りなどの祭礼が人々の心のより所となっていました。

食に関しても、庶民は自給自足が当たり前でしたから、作物の収穫量が生活に大きな影響を与えました。だからこそ五穀豊穡を祈ってきたわけです。そうした不安定で厳しい生活の中、共同作業で役割を決め、一つのことに取り組み。その過程が地域の結束を強め、娯楽であっても、生活の糧として身近なところに存在したと言えます。

民俗芸能のこれから

日々のくらしに密接に関わってきたものなので、価値感の変容と



皆さんの心に残る芸能は必ず続いていきます。
演じる誇り、人同士のつながり、こそが紡ぎに最も必要なこと

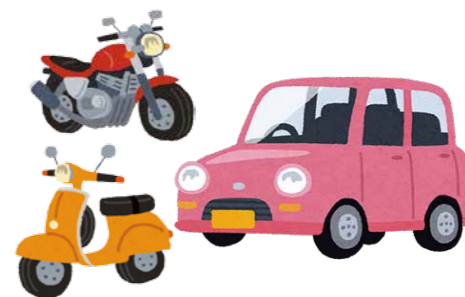


ともに変化を迫られることは仕方ないこと。しかし、大切なのは「なぜその文化が必要だったのか」「なぜ先人たちが伝承してきたのか」という民俗芸能が持つ意義や意味を私たちが知ることだと思っています。民俗芸能を今後どうしていくかは、最終的に継承する方々が選択することだからです。もちろん、民俗芸能は、生活の営みや信仰のあり方などの文化を理解する上で、非常に大切なものであることに変わりはありません。ただ、伝承を強制してもおそらく長くは続きませんよ。私は、継承の過程で生まれる演じることへの誇りや、人同士のつながりこそが価値があると思います。だから民俗芸能が途絶えたとしても、時代の風流と人同士のつながりによって形を変え、いずれまた復活するでしょう。民俗芸能の本質は、伝統と創造を重ね時代と呼吸してきた文化なのです。

これまで紡がれてきたもの
新しく紡がれていくもの
あなたの心に残る芸能はありますか？

01

4月1日まで
軽自動車税の手続きを忘れずに



軽自動車税は、毎年4月1日現在、軽自動車や原動機付自転車、小型特殊車両などを所有している人に課税されます。
対象となる車両を他人に譲ったり廃棄したときは、4月1日までに名義変更や廃車の手続きを済ませてください。期日までに手続きをしない場合は、新年度の軽自動車税が課税されます。
※手続きに必要な書類は、事前に届け出先に確認してください。

▼問い合わせ
☎0287(62)7179

○本課税課

車種	問い合わせ・届け出先
○原動機付自転車 (125cc以下)	本課税課 ☎0287(62)7179 ☎0287(37)5101 ☎0287(32)2910 ☎0287(35)2511
○小型特殊自動車のうち市・町ナンバーのもの	☎0287(32)2910 ☎0287(35)2511
○二輪 (125ccを超えるもの)	栃木運輸支局 ☎050(5540)2019
○小型特殊自動車のうち栃・栃木ナンバーのもの	☎050(5540)2019
○軽自動車 (三輪・四輪)	軽自動車検査協会 栃木事務所 ☎050(3816)3107

03

新しい副市長に
片桐計幸氏が就任しました



片桐計幸氏が1月1日付で副市長に就任しました。

▼プロフィール
・昭和55年4月旧 西那須野町職員採用
・平成23年4月〜24年3月 企画部参事(那須地区広域行政事務組合派遣)
・平成24年4月〜28年3月 企画部長
・平成28年4月 企画部企画政策課参事監

▼問い合わせ
☎0287(62)7108

○秘書課

04

4月3日からオープン
障害者相談支援センター



▼取扱い時間 午前8時30分〜午後5時15分
※土・日曜、祝日、年末年始を除く。

▼ところ 市役所本庁舎社会福祉課内 (共筆社108・2)

▼相談方法 電話、来所、自宅訪問、その他
電話番号 0287(62)7787
FAX 0287(63)8911

▼対象 心身に障害のある人や難病を患っている人とそれに関わる全ての人

※大田原市、那須町と共同設置していた那須地区障害者相談支援センターは廃止。

▼問い合わせ
☎0287(62)7026

○社会福祉課

02

自転車レース「ツール・ド・とちぎ」
使用道路の交通規制がなされます

3月31日から4月2日の3日間にわたり開催される国際自転車競技連盟公認のロードレース「ツール・ド・とちぎ」。本市は大会2日目(4月1日)がコースとして設定されており、市内の各所で交通規制が行われます。当日は周辺道路は混雑が予想されますので、う回路を利用してください。

▼問い合わせ
☎0287(37)5439

○スポーツ振興課

那須分岐点交差点 ~ 那須高原大橋
11:55頃~12:50頃
※時間はレースの状況によって前後することがあります。

コース(選手走路) 全面通行止め 推奨う回路

※寺子地区豊岡交差点付近についても、選手通過時(11:30~12:30)は通行止めになります。

05

ごみの野外での焼却は
法律で禁止されています



少しぐらいなら大丈夫だろうと、ごみを野外で焼却すると周辺は大迷惑。「においが洗濯物につく」「子どもがせき込んでいる」といった苦情が多く寄せられています。

野外焼却は法律で禁止されていて、違反すると五年以下の懲役もしくは千万円以下の罰金またはこれらの併科に処せられます。

家庭から出るごみは、ごみステーションに出すか、那須塩原クリーンセンターに持ち込むなど、決められた方法で処理してください。

▼環境対策課
☎0287(62)7144

06

栃木デザートネイションキャンペーン(DC)
4月からいよいよスタート



JRグループと共同で取り組む国内最大規模の観光キャンペーン「栃木DC」が、平成29年から31年の4〜6月に開催されます。

本市では、49の宿泊施設と飲食店が母と牛乳のデザートなどを提供する「いちごごみるくフェア」や、41の宿泊施設が自慢の朝食を提供する「朝食イッピン物語」などの特別なプランでもてなします。この機会に足を運んでみてはいかがでしょうか。

▼問い合わせ
☎0287(46)5326

○市観光局



雅な世界ようこそ ～塩原温泉で雛めぐり～

2月4日から4月3日にかけて、塩原もの語り館を主会場として「塩原のんびり湯くくり雛めぐり」が開催されています。期間中は、十二単の着付け体験や様々なイベントが開催されるほか、天皇の間記念公園に旧華族三島子爵ゆかりの大正時代の雛人形も特別公開されています。初日にはオープニングイベントとして琴の演奏が行われ、もの語り館を訪れた人たちは、振舞われた甘酒を味わいながら一足早いひな祭りを楽しんでいました。



プロの技術を見て学んで 将来のために ～セルジオ越後杯争奪戦 交流試合～

1月28日・29日と2月4日・5日の2週にわたり、くろいそ運動場体育館でフットサル大会「セルジオ越後杯争奪戦」が行われ、24の小学生サッカークラブが熱戦を繰り広げました。この大会は、サッカー解説者でおなじみのセルジオ越後氏が来日当初、旧黒磯市に住んでいたことを縁として始まり、今年で37回目。各クラブ vs セルジオ氏+現役プロ選手などで構成されるチームとの交流試合では、プロのテクニックに場内から歓声が上がりました。



後続を引き離し 見事王座へ振り返り ～郡市町対抗駅伝競走大会～

冬の風物詩「駅伝」。1月29日、県庁と栃木市総合運動公園を往復する第58回郡市町対抗駅伝競走大会が開催され、本市からは県内最多の3チームが出場。

それぞれの市町の期待を背負う30チームがしのぎを削る中、那須塩原市Aチームが3時間4分18秒で、見事2年ぶりの総合優勝を果たしました。Bチームは9位、Cチームは14位と好成績を残し、「陸上王国 那須塩原」を県内に知らしめてくれました。

←復路の栃木市総合運動公園を一齐にスタートする選手たち
↓市長へ優勝を報告。右から2番目が宮下選手



第9区と第10区では、松村選手と宮下選手が区間賞を受賞。さらに、本大会のMVPにも選ばれた宮下選手は「なれると思わなかったのが嬉しい。先輩たちがつけてくれた差を縮めてはいけないと思ひ必死だった」と大会を振り返りました。



いろんな遊びに挑戦だ！ ～子どもフェスタ～

2月19日、市子ども会育成会連絡協議会主催の子どもフェスタがにしなすの運動公園体育館で開催されました。

昨年からはまったこの催しには、ベーゴマなどの昔の遊びやニュースポーツ、ボルダリングや格闘技など多くの体験ブースが用意され、会場を訪れた子どもたちは、元気に体を動かしていました。格闘技のスパーリングを体験した女の子は「スッキリした」と満面の笑みで答えてくれました。



みんなの知恵で 安心・安全に ～消費生活と環境展～

普段捨ててしまっているもの。それに少し工夫を加えるだけで、違う何かに生まれ変わるかもしれません。毎日の食事も、少し工夫するだけで健康的な生活につながります。

そんな、暮らしの中で使える知恵を紹介する消費生活と環境展が2月19日、いきいきふれあいセンターで行われました。展示や紹介だけでなく、参加型のワークショップなども催され、会場は多くの人でにぎわいました。



伝統の大会 繰り広げられた熱戦 ～関東かるた大会～

今年で62回を数え、毎年恒例となっている黒磯いぶき会と黒磯公民館共催の関東かるた大会。2月5日、北は宮城から南は東京に至るまで、今年も県内外から老若男女140人が集いました。

全員が耳を澄まし、札読み以外の一切の音がしない会場。決まり字が読み上げられた瞬間に響く、取り札を払う鋭い音と畳を打つ重い音。静と動が入り交じり、独特な緊張感が漂う中で、参加者は100分の1秒を競い合いました。



将来の夢に向かい 一歩踏み出そう ～市商工会青年部 起業教育セミナー～

激動する社会で豊かな人生を送るために必要なものは何だろうか。市商工会青年部による高校生のための起業教育セミナーが1月29日に開催され、黒磯高校・黒磯南高校の生徒23人が参加しました。

進学か就職か。さらに、どの学校や企業に進むべきか。そう遠くない将来、人生の岐路に立つ彼ら。このまちで商売を営む先輩たちの体験談やアドバイスなどを聞きながら、自らの過去の実体験を振り返り、自分たちの未来を思い描きました。

POST お便りBOX

皆さんからいただいたお便りを紹介します。
今後の広報誌づくりの参考にさせていただきます。
※今回の読者プレゼントはお休みします。いただいたハガキは次回の抽選で反映させていただきます。

◆中学生の息子がいるのですが、校内でどんな部活や子どもが友達でどんな活躍をしているかが分からず、残念です。スポーツでも文化活動でも「得意なことや好きなこと」に頑張るって打ち込んでいる人がいるとわかることで、刺激になり、自分の意欲にもつながると思います。どんなに小さいことでもいいので、子どもたちが楽しむ姿、真剣な姿を取り上げ、発信してください。これからも「なにかやってくれる」広報を楽しみにしています



◆毎回読んでいます。身近な情報などがたくさん詰まっていますので、とても参考になりますし、勉強になります。これからもイベント情報など知らせて頂いたり、私たちの身近な存在でいて欲しいです。



◆田舎ランド嶋内での天体観察教室は目をひきました。佐久山



◆カラー写真が読解力を誘う！市内を知ることができて楽しみです。

◆広報のデザインが変わり、写真が多く、カラフルになったため、すみずみまで読むようになった。マラソンや産業文化祭などのイベントの特集をしてほしいです。



◆面白いお店や変わったお店、地域の産業などの特集を、もっと、取り上げて欲しいです。



◆那須塩原は本州生乳生産第一位の酪農地帯なので、牧場がた

のプラネタリウムに一度言ってみよう。星空を仰いだことがあり、とてもきれいだったことを覚えています。

◆介護保険の枠組みが変わり、私も目に留まりました。正しい入浴方法も知っているようで改めて読みました。これから寒くなるので温泉はいいですねー友人と行ってみたいになりました。



◆成人を迎えた方々おめでとうございます。1人1人が自分の夢に向かって、前進していかって下さい。人生は苦労してこそ、他の人の気持ちがわかるのだと思います。

◆小学生アイデア料理コンテスト。私には思いもつかない料理で、どれもこれもおいしそうですね。いつも1パターンになってしまうので(笑)チャレンジしてみようかなって思います。



◆高齢者が健康な生活を続けるためには、利便性も必要ですが、

◆祝成人特集、広報誌担当者のスカイタイムさん(青木)20代女性



◆祝成人特集、広報誌担当者の



スマートフォンなどからの応募はこちら

Q. あなたが好きなコーナーはどれですか？(複数可)

1. 表紙
2. 特集
3. 行政 info
4. タウントピックス
5. 子育て連絡帳
6. チャイルドトピックス
7. 健康だより
8. 図書館へ行こう！
9. お便りBOX
10. なすしおばら珍百景
11. ちっちゃな自然
12. 編集後記
13. げんきびと
14. ものづくり若人

広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい話題や記事などをお書きください。

病気がけが予防のための運動教室などに参加すると、ポイントが得られるなど、利点を増やすと良いと思います。例えば、ポイントをためると買い物やサービスを受けられるなどの工夫をしてはどうでしょうか。

◆たとえば、趣味で行っている卓球やグラウンドゴルフなどをやっている姿を写真にとってもらい、楽しさを伝えてもらえる記事があったら、いいと思います。



K・Kさん(鍋掛)50代女性

◆地域の自治公民館などでそれぞれの活動がいろいろな形でなされていることと思います。例えば、大きく分けて塩原・黒磯・西那須野地区といったように、月毎に順に指名して、それぞれの活動を広報に掲載してみたいです。



A・Kさん(東赤田)70代女性

◆私どもの夫婦は老々介護の日々で、すくすくつらくなることもあります。しかし、介護士さんやケアマネージャーさんたちに助けていただき感謝の気持ちでいっぱいです。そんな現場の声なども取り上げていただきたくお願い申し上げます。



S・Oさん(清住町)70代女性

◆市内で行われるイベントや美しい風景などの情報を得ることができて楽しく読ませていただいています。



としますさん(三島)60代男性

◆地域のイベント情報(観光イベントやフリーマーケット情報)を知りたい。また、ボランティア活動の募集とかも取り上げてほしい。



亀ちゃんさん(若草町)40代男性

Y・Tさん(豊浦)10代男性

その他にも、たくさんのお便りをいただきました。ありがとうございました。

※いただいたご意見は、内容を変えない範囲で添削させていただく場合があります。
※紙面の都合上、掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。

子育てに悩んだら行ってみよう！(4月)

育児相談

育児の不安、一人で悩まないで。お話しにきませんか。

保健師や栄養士などによる相談を行っています。お気軽にお越しください。

とき	ところ
10日(月) 午前9時30分～11時	黒磯保健センター
13日(木) 午後1時30分～3時	西那須野保健センター

※西那須野保健センターは事前の申し込みが必要です。

母親学級

お母さんになるための準備、みんなで一緒にしましょう！

妊婦さん同士の話し合いや体験学習をします。ママ友づくりの場にもなっていますよ！

とき	ところ
7日(金) 午後1時30分～3時	黒磯保健センター

テーマは、「ママと家族の健康づくり」。家族の人(お父さんになる人)も、ぜひ一緒に参加してください。

※予約制になりますので事前に申し込んでください。

予約・問い合わせ

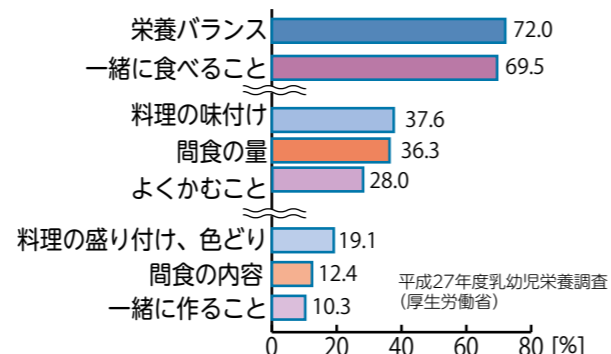
黒磯保健センター
☎0287(63)1100

西那須野保健センター
☎0287(38)1356

知っておきたい、おやつ(間食)の本当の話

子どもにとって、エネルギーと栄養素を補う役割を果たす「おやつ」。厚生労働省の調査で、2～6歳の子どもを持つ親が「子どもの食事で特に気を付けていること」として一番回答が多かったものは「栄養バランス」(72.0%)。一方、「間食の量」や「間食の内容」に気を使っている人はそれぞれ36.3%、12.4%と低い状況でした。

おやつは、食べ方によっては食事に悪影響が出てしまいますので、家族で食べる時間と量に気を付けて楽しみましょう。



？ おやつは好きなだけ食べさせて良い？

欲しがるときに好きなだけ食べさせると、肥満につながったり、食事時間に食欲がなくなったりと影響はさまざま。「むら食いをする」と悩むお母さんが多いのですが、これは食事時間に空腹感がないことが原因かもしれません。

💡 おやつ=お菓子ではありません

おやつをあげるときは、次のものがおすすめ。また、飲み物は水やお茶にしましょう。



※果物や牛乳・ヨーグルトのとりすぎには気を付けましょう。



おやつから摂るエネルギーは、1日のエネルギー必要量*の10～20%が適量。これは1～2歳児は約100～200キロカロリー、3～5歳児は約150～250キロカロリーに相当します。

※日本人の食事摂取基準(2015年版)

？ 夕食後のおやつは必要？

夕食後のおやつは必要ありません。食事時間と2～3時間あくように時間を決めて定期的に食べさせましょう。
時間：1～2歳児 午前10時頃と午後3時頃の2回
3～5歳児 午後3時頃の1回



元旦にUFO襲来？



投稿者 松本 登吾 さん(70代男性 豊浦南町)
撮影場所 豊浦(撮影日 H28.1.1)

去年の元旦のこと。天気が良かったので、朝早くに自宅を出て、初日の出を撮影しにいきました。家に帰って写真を見てみると、太陽の上に謎の物体が。。。変わった形の雲に太陽が反射し、まるでUFOのように写ったんですね。

あなたの"珍"を募集中

＜応募方法＞
方法① きらきらホット
なすしおばらに投稿
珍百景投稿用フォームに
必要事項を入力。

方法② シティプロモーション課に電話
☎0287(62)7109

●必要事項
住所、氏名(ペンネーム)、電話番号、年齢、性別、珍百景写真、タイトル、撮影日、コメント(100字程度)

●注意点
※人権侵害、政治・宗教活動、意見広告や宣伝につながるものなど、掲載できない内容があります。
※内容を変えない範囲で添削する場合があります。
※被写体の人物または所有者などに許可を得てから応募してください。
※インターネットなどからの転載はご遠慮ください。
※応募いただいた写真は市の情報発信活動に使わせていただく場合があります。

いつでもどこでも
広報なすしおばら
がスマホで読める

行政情報アプリ「広報なすし」が「マチイロ」としてリニューアル！

マチを好きになるアプリ マチイロ

自治体がもっと身近になる機能が盛りだくさん！

- 1 役立つ行政情報を見逃さない！
- 2 自分に合わせた情報が届く！
- 3 いろいろなマチの魅力を届けよう！

ダウンロードはこちらから

マチイロに関する問い合わせは株式会社ホープ(092-716-1404)まで

お手数ですが
52円切手を
貼ってください

3 2 5 - 8 5 0 1

那須塩原市役所
シティプロモーション課
「広報なすしおばら係」行

ご住所

那須塩原市

お名前(掲載する場合は実名ではなく、イニシャルで掲載します)
ペンネーム
(希望者のみ)

☎電話


年齢 歳 性別 男 女

読者プレゼントに応募しない場合は☑をいれる 応募しない


僕らが築く 安心ネットルール

～日新サミット2年間の軌跡～


参加者の声



渡辺宏祐さん (日新中3年)
以前はSNSの問題はよくわからなかったけど、活動を通じ、自分たちが変わっていくという考えを全員で持てたと感じています。今まで自分たちができることをやってきたので、後輩たちに意思をつないでいきたいです。



大隅陽太さん (豊浦小6年)
以前よりもSNSを使うことに気を付けるようになりました。サミットでは先輩と意見を交換したりして、とても勉強になりました。



金子樹さん (鍋掛小6年)
今までは夜の9時を過ぎてもゲーム機を使っていました。でも、これからは先輩たちと作ったこのルールを守っていきたい。参加してよかったです。

幸田 順さん (鍋掛小 PTA)
子どもたちが使う機器では、フィルタリングの確認を行っています。今回のように自分たちで意識してやっていることが、子どもたちにとって良い経験になっていると思いますね。

近年、社会的な問題となっている小・中学生のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の利用。インターネットの普及により、さまざまな情報を入手したり、多くの人とコミュニケーションをとったりすることが容易になってきている反面、ネット上での悪口や課金サイトへの誘導など、子どもたちがインターネットトラブルに巻き込まれることも増えてきている。

子どもたちを守るにはどうすればよいか。市内でも、この問題について率先して取り組んでいる学校がある。

日新中学校では、児童生徒と地域の大人たちが一緒になって「日新サミット」を開催し、子どもたち



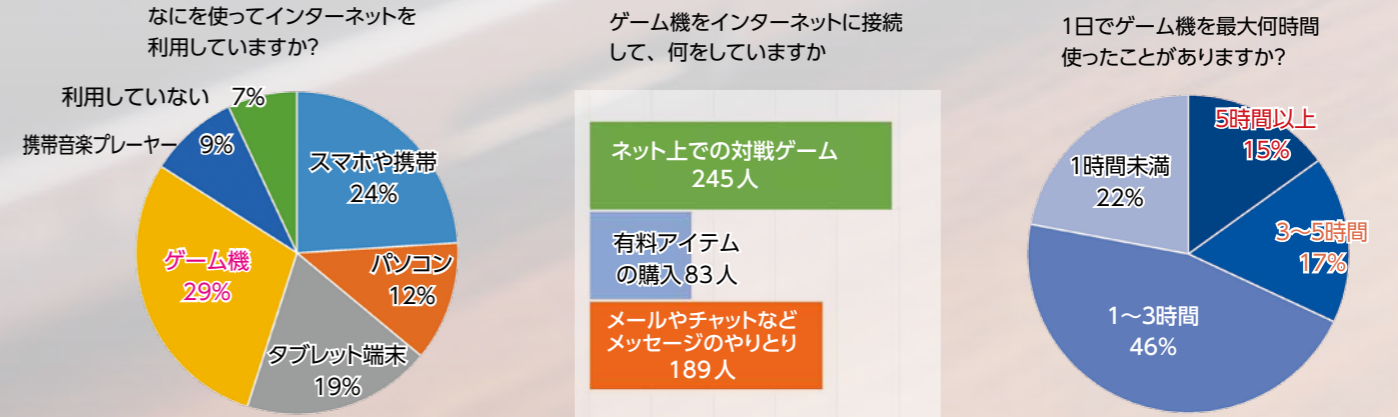
がSNS利用する際の問題について話し合ってきた。

平成27年度から28年度にかけて4回開催された日新サミット。日新中学校・鍋掛小学校・豊浦小学校の児童生徒に加えて、保護者や教師がそれぞれの立場という垣根を超えて議論を重ねた。そして、出し合った意見を基にSNSを使用する際のルールを作成した。

しかし日新サミットは、単にルールを作ったという訳ではない。作ったルールについて、子どもたちが自らアンケート調査を行い、ルールの効果を検証している。そして新たに浮き出た問題についてクラスで意見をまとめ、次回のサミットで更なる議論を重ねている。

子どもたちの実態はどうなのか…。 日新中生徒会がアンケート調査を実施

日新中の全生徒および、鍋掛小と豊浦小の5・6年児童を対象にアンケートを実施した結果、インターネットを利用するためにゲーム機を使用する子どもが全体の3割近くおり、ゲーム以外にメールなどを使用しメッセージのやりとりを行っていることが判明した。また、長時間(1日で最大3時間以上)使用したことがある児童生徒も3割以上いること、夜の9時過ぎまでインターネットを使用しメールのやりとりをしている状況などが分かった。

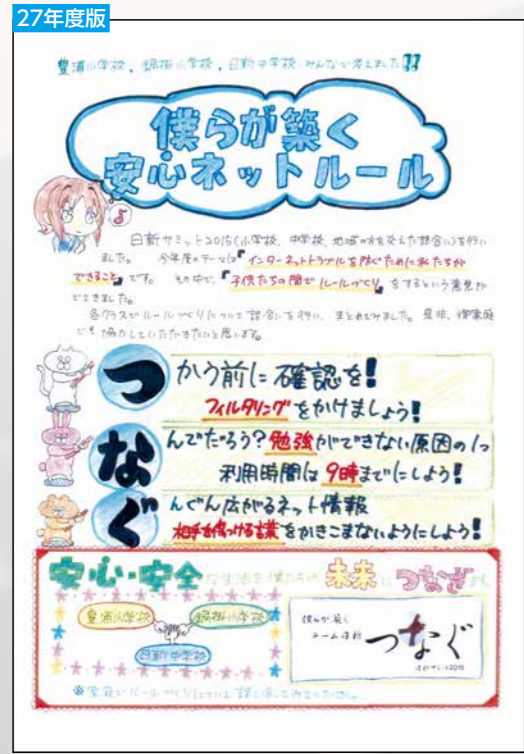


◆小・中あわせた日新中学校区全ての統計 (H28.6.24開催の日新サミット資料より一部抜粋)

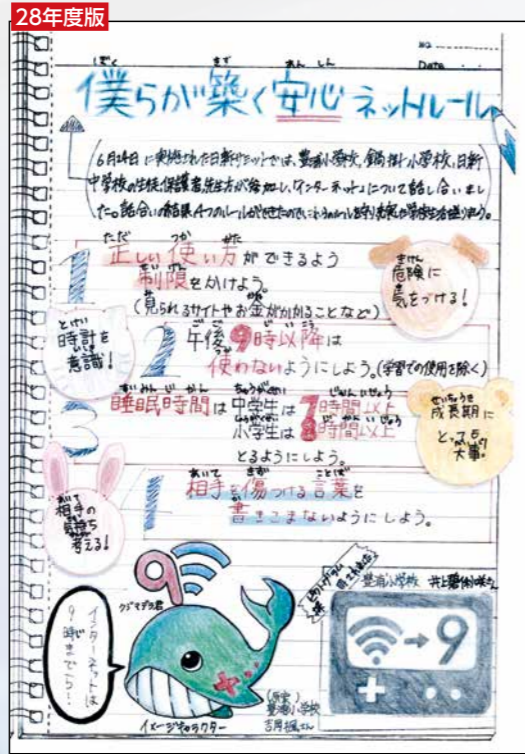
自分たちで作ったルールの価値

SNS利用のルールを作ったことで、「ネット上での悪口のトラブルがほとんど見られなくなった」と答えた生徒が95%に達したほか、利用時間を守る子どもも増加した。「誰かに言われたから」では

なく、「自分たちで決めた事だから」と、子どもたちが自分事として問題を認識するようになった。サミットを通じ、子どもたちは、他人の多くの意見を聞き、その内容をまとめ、自分の意見として発表する力を身に付けた。



サミットで議論されて作られたルールは、手作りパンフレットにして全児童生徒に配られた。



日新サミットが教えてくれたもの

平成29年2月10日開催の会議では、今までの経過などが発表されたほか、今まで練り上げてきたルールをさらに良いものとするため、活発な意見交換が行われた。日新サミットがSNSをテーマとするのは今回が最後。しかし、子どもたちは引き続きSNS利用について研究を続けていくという。「自分たちの問題だから、自分たちでできることはなにか…」。

日新サミットに参加した人たちが示してくれた、自主的な考えによる問題解決。日新中学校区だけでなく、全ての地域で、そしてこの社会を生きる私たち全てが、今を生きていくために持つべき意識ではないだろうか。



子どもたちが考案したピクトグラムとイメージキャラクター ※ステッカーにして子どもたちに配布された。



大きくなったら、また会いたいね
～すぎのこ幼稚園 サケの稚魚放流～

2月21日、すぎのこ幼稚園認定子ども園の年長組園児たち28人が、蛇尾川にサケの稚魚を放流しました。この日放流されたのは、3、4センチメートルに育ったサケ稚魚500匹。稚魚は小さなバケツに入れられ、園児たちの手で川に放たれました。この後、稚魚たちは海に出て大きくなり4年後に戻ってきます。園児たちは「(サケの子どもが)小さくてかわいかった」、「(稚魚が大きくなって)戻ってきたらまた会いたい」と元気に答えてくれました。



怖い鬼には負けないよ
～いなむら保育園 豆まき～

「おにはそと～、ふくはうち～」節分の日の2月3日、いなむら保育園で豆まきが行われました。年長組の子どもたちが鬼のお面を被り園庭に現れると、ほかの組の子どもたちが元気に豆をまいていました。すると突然大きな鬼がそこに乱入。子どもたちは悲鳴をあげて逃げながら、懸命に豆を鬼にぶつけます。ついさっきまで小鬼役だった年長組の子どもたちも一緒になって豆をまき、怖い鬼を見事に追い払いました。



上：手綱を引いてもらわなくても慣れてしまえば1人で乗れるんです 左下：エサの干し草をみんなでカゴに積み込みましょう 右下：大好物のリンゴをあげてもっと仲良くなるよ



馬と触れ合い 育まれる心
～青木小学校 乗馬教室～

馬は人の心を読み、触れ合うことで感情や情緒の育成に寄与し、心を豊かにすると言われます。青木小ではホースガーデンに近い立地を生かし、部活動や課外活動などで積極的に馬と触れ合う機会を提供しています。1月17日には2年生の校外学習で乗馬教室が行われ、11人の児童が乗馬と馬の世話を体験しました。渡辺睦輝くんは「馬に乗るのは4回目。最初は怖かったけどだんだん慣れてきた」と、馬をブラッシングしながら話してくれました。



“雷様剣士ダイジ”がやってきた！
～たかはやし保育園 ダイジとダンス～

県民ヒーロー“雷様剣士ダイジ”が、たかはやし保育園にやってきました。この日、誕生会を開いていた子どもたちのところにダイジが登場。すると、会場は一気に歓声に包まれました。子どもたちはヒーローを前にして目をキラキラさせながら「どうしてそんなに強いんですか？」と質問するとダイジは「大事な人を守りたいと思ってるからだよ」と拳を上げて返答。最後にみんなでダイジのエンディング曲「FuriFuri」のダンスを踊り、子どもたちは楽しいひと時を過ごしました。



小規模校の利点を生かした特色教育
～大貫小学校 英検Jr試験～

児童が目標をもって勉強に取り組めるよう、大貫小学校では学校をあげて英検Jrや漢字検定に取り組んでいます。小規模特認校制度を活用して学習のための問題集を購入し、家庭と連携した学習を進めています。2月1日には32人の児童が英検Jrを受検。八木沢教頭は「ALTの配置で英語に触れる機会は増えたが、“検定”という目標を設定することで、みんなで前向きに学ぶ風土ができています」と手ごたえを感じている様子でした。



日々の活動の様子を発信中



天然のスケートリンクで滑走
～横林小学校 スケート教室～

横林小学校の向かいにある田んぼは、毎年冬のこの時期になるとスケートリンクに変身。地域の皆さんの協力のもと、12月から少しずつ水を張りながら、子どもたちのために準備を重ねてきました。2月2日のスケート教室では、5・6年生13人が滑走。元フィギュアスケーターの村上尚子先生の指導の下、後ろ向きに滑ったり、足を交差させたり、ジャンプして回転したりと、レベルの高い授業を難なくこなす子どもたち。1年生の頃からこの田んぼで練習を重ねてきた成果が見て取れました。



大空へ飛ばせ！ みんなの夢
～三島小学校 凧揚げ大会～

「行事の少ない冬季に、子どもたちが楽しめるものを始めよう」と当時のPTAと学校が企画し、今年で32回を数える三島小・凧揚げ大会。1月21日に今年も三島体育センターグラウンドで開かれ、手作り凧のコンテストのほか、6年生がクラスごとに作った連凧も揚げられました。そして、メインは“生”きる“喜”びを“心”から感じるをテーマに全校児童の夢が書かれた3枚の大凧揚げ。当日は風が弱く苦戦を強いられましたが、参加者みんなで綱を引き、大凧が舞い上がると「やったー」と歓声が上がりました。

春はもうすぐ
～カタクリ～



カタクリの花 撮影日時:2013/4/5 撮影場所:黒磯公園(東斜面)

カタクリって?

ユリ科
Erythronium japonicum Decne

明るい山野の林床に群生する多年草。長楕円形の2枚の葉にシミのような茶色の模様がある。茎の先端に1輪の花を下向きにつける。



アズマイチゲ

カタクリの花は、片栗粉の原料として使われていました。しかし、カタクリの鱗茎は小さく、地中深いところにあるため、精製するには効率が悪く、今はジャガイモから作っているそうです。市内には木の俣園地や墓沼などカタクリの群生地がいくつかあるので、野山から春の魅力が失われないよう、大切に守っていききたいと思えます。 おさむ

3月になりました。春は出会いと別れ、終わりと始まりの季節。皆さんにとってどのような春になるのでしょうか。私にとっては、長年勤めてきた職場を離れ、新しい仕事に就く春です。4月からはどうなるのかな、何をしているのかなと思っています。一方、これまでより自由な時間が増えるので、色々な自然を見つけて、野山を歩けるようになるのがとても楽しみです。そんな大きな希望と小さな不安が混ざり合う春です。

そんな私たちの思いとは関係なく、少しずつ迎える野山の春。2月の中旬には北部にフクジュソウが咲き始め、もう少し先の4月になると黒磯公園にカタクリやアズマイチゲが咲くことでしょう。茎を伸ばした先に薄紫色の花を下向きに咲かせ、春を感じさせてくれるカタクリ。地元の方々が続けている保護活動のおかげで、この公園に群生している数はなんと1万5千株にも及ぶそうです。咲いているその姿は本当に見事で、心の底から感謝の気持ちが湧いてきます。

編集後記

今回、子どもたちがインターネット利用について話し合う現場取材しました。改めて子どもたちがインターネットをいろいろなことに活用しているのを知ってびっくりしました。また、ほとんどの子どもたちがゲームを持っていて、3割近くがゲーム機を使ってメールなどを行っていることに2度びっくり。近い将来、子どもたちも、身に着けて持ち運べるウェアラブル端末を使用してコミュニケーションをとるようになるのでしょうか。(興野)

特集で紹介した神楽面は、趣味でお面を製作されていた大田原市の方の作品。当時の話を伺おうかと奔走するも連絡がつかず断念しました。ご健在であれば90歳近いだろうとのこと。面は所どころに塗装の剥がれが見られるものの、30年以上経った今もあの艶を残しているのには驚きました。大切に布にくるんで倉庫に保管されていたが、あの面たちがボロボロになるまで神楽が紡がれ続けていく未来を想像しながら話に耳を傾けていました。(小林)

図書館HP



図書館へ行こう!

新生活の準備の参考になる本、あります



NEW!

『世界一周経験者169人が選んだ究極の絶景50』



編：A-Works A-Works
世界中を旅して歩いた旅人たちの「地球290周、27038日分の旅」から厳選された50の絶景。美しい写真とともに、旅人たちのリアルな言葉が添えられた、心躍る一冊。世界の絶景がここにー。

『覚えておきたい総理の顔』



著：本間 康司 清水書院
名言などを交えながら日本の歴代総理がわかりやすいイラストで描かれた一冊です。総理の他にもその時代で印象に残った政治家たちが紹介されています。歴代の総理がこの一冊に集結!



『東京レトロ建築さんぽ』

著：倉方 俊輔 エクスナレッジ
「レトロ建築」そこには、現在の暮らしとは異なる素晴らしい空間があります。ランチにショッピングも素敵ですが、たまには違った視点で東京さんぽをしてみませんか?

扉の先は別世界?!ノスタルジックな世界を旅してみませんか。



『かぶきわらし』

著：庄司 三智子 河出書房新社
迫力たっぷりの歌舞伎の舞台、いろんなしつけや専門用語が楽しく学べる絵本です。有名な「白浪五人男」のカッコいい名ゼリも出てきます。

観音開きで豪華な舞台を体験!



『根っこのえほん』

編著：中野 明正ほか 大月書店
植物の根っこのことがわかる仕掛け図鑑です。土の中はおどろきがいっぱい。野菜やフルーツの歴史や栽培、栄養についても知ることができます。シリーズは3巻まで出ています。

植物のどこを食べているか、わかっておもしろい!



『お姫さま大全 100人の物語』

監修：井辻 朱美 講談社
100人のお姫さまのお話を集めた本です。物語に出てくるお姫さまだけでなく、実在したお姫さまのお話もあります。100人100通りの生き方をのぞいてみませんか。

この本を読めば、あなたもお姫さまになれる…?

イベント情報



おはなし会と工作会「ふりふりリボン」を作ろう!

絵本の読み聞かせをするおはなし会の後に工作会を行います。ハサミを使った作業はないので、小さなお子さんでも安心して参加できます。
▶とき 3月18日(土) 午前10時30分～11時30分 ▶ところ 塩原図書館
▶対象 小学生以下 ▶参加費 無料 ※申し込み不要。



▶問い合わせ 西那須野図書館 ☎(36)6001 黒磯図書館 ☎(63)9031 塩原図書館 ☎(48)7521



和氣 崇徳 さん(上大貫) 入社10年目 *Takanori Waki*
品質保証課 品質保証係

WAKO

若

ものづくり

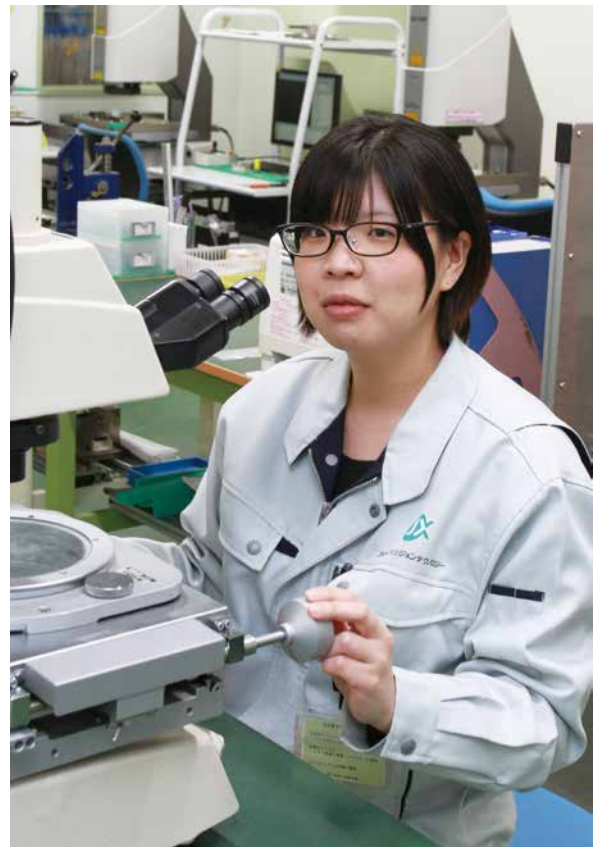
人

UDO



Vol.3

問い合わせ ☎0287(62)7130
☎商工観光課



益子 知子 さん(鍋掛出身) 入社13年目 *Tomoko Mashiko*
品質保証課 検査担当

検査は終点ではなく起点。検査を通じて成長を目指す2人

那須工場では銅などの非鉄金属をプレスなどにより加工。中でも超精密プレス・成形加工の分野では、千分の1mmの世界を実現する高い技術力を誇ります。出来上がった製品はパソコンや携帯、自動車など、私たちの身近なものに搭載されています。

精巧な品質を日々追求

益子…知人からの紹介がきっかけで入社しました。アルバイトの経験から接客に対して少し苦手意識があったので、正社員として働くならものづくりの仕事に就きたいと考えていました。

和氣…現在の業務は、品質管理と顧客対応がメインです。入社当初は製造に従事していましたが、前職(サービス業)の経験や性格をかわれて検査業務を経て、今の業務につきました。お客様へ提供する製品は、車や携帯の基盤などさまざまなものに組み込まれています。一つ一つの製品が人命に関わるという意識を強く持ち業務にあたっています。**益子**…製造から上がってくる製品は、スマートフォンなどに使用される非常に小さいものがほとんど。顕微鏡や投影機を使って、外観や寸法を数ミクロン単位で検査・確認しています。細かい作業のうえ、金型によって出来上がる製品の特性が若干違ったりするので、

それらを踏まえながら、「目指せクレームゼロ!」で検査に臨んでいます。
更なる高みを目指して

和氣…検査や品質管理は、製品だけを見ていればいいというものではありません。製造工程や現場の状況まで全てを理解することで、高品質な製品の安定供給が可能となります。私たちが自信を持って良い製品を提供することが、お客様の信頼獲得につながります。検査を終点とせず、起点として捉える体制を構築し、那須工場の成長につなげたいと思います。

益子…入社当時は見て覚えるという職人気質な仕事も少なくありませんでした。これからは、得られた経験を検査で活かしながら、後輩へ技術を継承するため、社内での作業標準化を推進していきたいと思っています。



協力企業
JX金属プレジジョンテクノロジー(株)
那須工場(埼玉4-104)
【業種】電子部品製造業
【業務の内容】高速プレス部品加工、電子部品の精密プレス金型の設計・製作、樹脂成形部品加工
【従業員数】169人
【問い合わせ】☎0287(63)8311